

## 世界の水を守るために

沖縄県 沖縄県立開邦中学校三年 竹本 華那子

日本は山や川が多く、豊富な水を持っています。そこで日本の水について調べてみました。

調べてみると、水には硬水と軟水の二種類があり、日本の水道水は殆どが軟水ですが、沖縄の水道水は全国平均の水道水の硬度と比べて約20mgも平均硬度が高いとわかりました。また、米軍から流入したカルキなども度々問題になっており、自分の住んでいる場所にも水に関する問題があると知り、驚きました。

日本には清流と呼ばれる川が数多くあり、別府の温泉などの観光地もあって、とても水が豊富です。これは日本の険しい地形のお陰だと言えるかもしれません。他にも山紫水明や我田引水、寝耳に水などの水に関する四字熟語やことわざも沢山あり、昔から人々は水と強いつながりがあったとわかります。一方、海外では陸続きの国が殆どで山地も少ないため、昔から水は貴重な資源でした。そのため、日本のように湯船にかかる習慣もありませんし、数日間体を洗わない国もあるそうです。

このように文化を比べてみると日本は水が豊富だと思われがちですが、輸入された食料を作るために使用された水も輸入したと考える「仮想水」の考え方は、日本は年間80兆Lもの水を輸入していることになりました。これは国内の水の年間使用量とほぼ同じです。この輸入量は世界トップで、日本は実際は約2倍の水を消費しているといえます。ネットで仮想水を自動計算できるサイトがあったので今日の昼食である、鶏卵一つ、ご飯一杯、そば一杯、醤油、麦茶で計算してみました。すると合計1150・78Lもの水が使われているとわかり、食物を育てるには膨大な量の水が必要なのだ感じました。また200年から2020年間の干ばつ回数とその期間が、1980年から2000年間の頃に比べて3割増えたという統計もあり、もし日本の食料の輸入先で干ばつが起きて不作になったら、日本にその食料が輸入

されないこともあるかもしれません。ですから、世界の水不足問題は日本も他人事ではないのです。

さらに、急激にふえるといわれている世界人口と、地球温暖化による影響で人間が飲める淡水の減少によって、水不足はより深刻になるでしょう。また、水を巡った争いも起きるかもしれません。それらの事態を防ぐにはどうすればよいのでしょうか。

ここで日本の技術が役立ちます。海水をろ過する海水淡水化技術や、日本が開発した下水の浄水処理技術などによって飲める水を増やすことができます。ただ、これは根本的な解決にはなりませんし、一部の人が行えませんが、世界中の人々ができることは、地球温暖化を止める、すなわちエコな生活を送ることと、節水をすることです。これまでに何度か言われてきたことかもしれませんが、水を出しっ放しにしない、マイバックを使う、食べ物は残さない、油や洗剤を使いすぎない…。一見当たり前のことのように思えるものばかりです。ですが、本当にできているでしょうか。私は「面倒臭い」といつてしないことも多く、毎日ではできていません。殆どの人が私と同じように、水を消費していると思います。しかし、その小さな積み重ねが大きな問題となって、数十年後、あるいは数年後の私達にはね返ってきます。

今、日本は水に困っていません。しかし世界のどこかでは水が不足しています。そして日本も必ずその影響を受けます。困るのは他の「誰か」ではなく「未来の自分」です。他人事ではなく自分事と捉えて、私はこれから生活していきます。